



IPv6 ネットワークの管理

- [HTTP \(S\) の IPv6 サポート \(1 ページ\)](#)
- [IPv6 デバイスへの HTTP アクセスのディセーブル化 \(1 ページ\)](#)
- [例：デバイスへの HTTP アクセスのディセーブル化 \(2 ページ\)](#)

HTTP (S) の IPv6 サポート

この機能は、HTTP (S) クライアントとサーバで IPv6 アドレスをサポートするようにします。

Cisco ソフトウェアの HTTP サーバは、IPv6 と IPv4 の両方の HTTP クライアントからの要求を処理できます。HTTP (S) サーバがクライアントからの接続を受け入れると、サーバはそのクライアントが IPv4 であるか IPv6 ホストであるかを決定します。それに応じて、ソケットコールを受け入れる IPv4 または IPv6 のアドレスファミリが選択されます。リスニングソケットは、IPv4 と IPv6 の両方の接続を待ち受け続けます。

Cisco ソフトウェアの HTTP クライアントは、IPv4 と IPv6 の両 HTTP サーバへの要求を送信できます。

IPv6 HTTP クライアントを使用すると、実際の IPv6 アドレスの URL は、RFC 2732 のルールを使用してフォーマットする必要があります。

IPv6 デバイスへの HTTP アクセスのディセーブル化

HTTP サーバをイネーブルにし、デバイスに IPv6 アドレスが設定されている場合、IPv6 を介した HTTP アクセスは自動的にイネーブルになります。HTTP サーバが必要でない場合は、ディセーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例：	特権 EXEC モードを有効にします。

例：デバイスへの HTTP アクセスのディセーブル化

	コマンドまたはアクション	目的
	Device> enable	<ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	no ip http server 例： Device(config)# no ip http server	HTTP アクセスをディセーブルにします。

例：デバイスへの HTTP アクセスのディセーブル化

次の例では、**show running-config** コマンドを使用すると、デバイスで HTTP アクセスがディセーブルになっていることが示されています。

```
Device# show running-config

Building configuration...
!
Current configuration : 1490 bytes
!
version 12.2
!
hostname Device
!
no ip http server
!
line con 0
line aux 0
line vty 0 4
```